

6か月から4歳のお子様をお持ちの保護者の皆様へ

4歳以下の小児への 新型コロナワクチン接種について 沼津医師会からのメッセージ

小児へのワクチン接種を推奨します

厚生労働省は小児の感染者数が増えていて小児の重症患者数が増加していること、オミクロン流行下でのワクチンの有効性や安全性が確認されていることより、生後6ヶ月から4歳以下の小児をお持ちの保護者の皆様にワクチン接種を考えていただきたいと決定しました。

第7波は、子供（小児）から両親・祖父母への感染により感染が拡大して、基礎疾患が悪化したり別の病気を発症して、両親や祖父母が多く入院しています。また小児同士で感染する機会が増加し、重症化する小児患者も増加しています。20歳未満の中等症・重症患者の約60%が小学校入学前の子ども達でした。

現在5～11歳の小児への新型コロナワクチン接種も始まり、有効性と安全性に関する情報も蓄積されてきています。特に小児においても新型コロナワクチンは重症化予防に寄与することが確認されました。ワクチンを接種するメリット（発症予防や重症化予防）がデメリット（副反応など）を大きく上回ると判断しました。生後6ヶ月から4歳以下の子ども達はなかなか感染対策ができません。唯一積極的な予防が「ワクチン接種」となります。子どもたちの感染を新型コロナワクチン接種で予防し、大切な子ども達とその家族を新型コロナウィルス感染から守ってあげてください。

接種に悩んだらかかりつけ医に是非ご相談ください

2022年8月現在の日本小児科学会の見解です

1. 小児を新型コロナウイルス感染から守るためには、周囲の大人の新型コロナワクチン接種が重要です。適切な回数（3回目又は4回目）の新型コロナワクチン接種をうけることを推奨します。
2. 重症化リスクの高い基礎疾患のある小児は新型コロナワクチン接種を推奨します。接種に関しては主治医に相談してください。
3. 日本小児科学会は5～17歳の健康な小児への新型コロナワクチン接種を推奨します。小児においてもワクチン接種の効果と安全性が確認されています。ただし接種される際にはきめ細やかな対応と配慮をお願いします。
4. 2回目の接種から5か月以上経過した12～17歳の小児に対しては、早期の追加接種（3回目）を推奨します。

引用文献

「新型コロナワクチン～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～（2021年11月2日改訂）」

「5～11歳小児への新型コロナワクチン接種に対する考え方（2022年3月23日一部修正）」

「12～17歳の小児に対する新型コロナワクチン追加接種について（2022年3月25日）」

接種の際は「母子手帳」を忘れずにご持参ください



Q 生後6ヶ月～4歳の子どもの新型コロナワクチンって？

A ファイザー社製で、1回の接種に含まれる有効な分量は大人の10分の1、5歳～11歳の子どもたちのワクチンの3分の1です。この量で十分に抗体価が上昇することがわかっています。

Q 接種スケジュールは大人と一緒にですか？

A 3回接種が必要です。1回接種から3週間あけて2回目接種します。そのあと少なくとも8週間あけて3回目を接種します。

Q 今、受けなくてはならない定期接種があります。

A まずは定期接種を優先して下さい。その定期接種の2週間より前、あるいは2週間より後に新型コロナワクチンをうまく組み込んでください。インフルエンザワクチンとは接種間隔の制限はありません。

Q ワクチンの副反応は？

A ワクチンの副反応はほとんど軽度か中程度で一過性です。6ヶ月～1歳までの副反応はイライラが多く続いて食欲低下減退、発熱などです。2～4歳までの副反応は倦怠感が多く続いて下痢、発熱、嘔吐です。

Q 長期的な影響はありませんか？遺伝するのではないのでしょうか？

A ファイザー社製のワクチンは「mRNA(メッセンジャーRNA)」ワクチンです。タンパク質を合成するためのいわば「設計図」のようなもので、体内に入ると数分から数日で分解されます。またヒトの遺伝情報であるDNAには組み込まれません。体内ではDNAからmRNAが作られる仕組みはありますが一方通行で、mRNAからDNAは作られません。